千葉市感染症発生動向調査情報

2023年 第49週（12/4-12/10）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数	定点	49週	48週	47週	46週
	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	*ｲﾝﾌﾙ/COVID	28	28	28	28
	基幹	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの報告数

「定点当たりの報告数」とは
報告数/報告定点数

*正式名称は
インフルエンザ/COVID-19定点

定点	感染症名	千葉市 注意報	千葉市 12/4-12/10 49週	千葉市 11/27-12/3 48週	千葉市 11/20-11/26 47週	千葉市 11/13-11/19 46週	千葉県 11/27-12/3 48週
小児科	RSウイルス感染症		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	5 0.04
	咽頭結膜熱	◎	46 2.56	38 2.11	35 1.94	40 2.22	499 3.96
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	◎	126 7.00	108 6.00	107 5.94	97 5.39	801 6.36
	感染性胃腸炎	◎	233 12.94	163 9.06	120 6.67	115 6.39	723 5.74
	水痘		1 0.06	2 0.11	0 0.00	1 0.06	15 0.12
	手足口病		3 0.17	6 0.33	5 0.28	17 0.94	47 0.37
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00
	突発性発しん		3 0.17	1 0.06	5 0.28	7 0.39	13 0.10
	ヘルパンギーナ		0 0.00	2 0.11	4 0.22	4 0.22	4 0.03
	流行性耳下腺炎		0 0.00	2 0.11	0 0.00	2 0.11	11 0.09
*ｲﾝﾌﾙ/COVID	インフルエンザ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	★○	538 19.21	466 16.64	510 18.21	428 15.29	4,835 23.70
	新型コロナウイルス感染症	○	55 1.96	43 1.54	38 1.36	30 1.07	470 2.30
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	8 1.60	0 0.00	2 0.40	50 1.43
基幹	クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎（髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上
「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2　全数報告対象疾患：　3　例

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
腸管出血性大腸菌感染症	女性	50歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	つつが虫病	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出
				急性脳炎	女性	10歳未満	高熱、中枢神経症状等

・第49週は、腸管出血性大腸菌感染症1例（36）、つつが虫病1例（1）、急性脳炎1例（13）の発生届があった。

※　（）内は2023年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第49週のコメント

＜咽頭結膜熱＞

前週より増加し2.56となり、過去10年の最多を更新した。年齢階級別の報告数は3歳及び4歳が最多。区別では、若葉区（4.50）が流行発生警報開始基準値（3.0）を上回り最多で5歳の報告が最も多かった。他に稲毛区（3.33）が流行発生警報開始基準値を上回り、中央区（3.00）が流行発生警報開始基準値と並んだ。緑区（2.50）及び花見川区（2.00）が流行発生警報終息基準値（1.0）を上回った。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

前週より増加し7.00となり、過去10年中で最多を更新した。年齢階級別の報告数は8歳が最多。区別では、稲毛区（11.33）が流行発生警報開始基準値（8.0）を上回り最多で7歳の報告が最も多かった。他に中央区（9.67）が流行発生警報開始基準値を上回り、緑区（7.50）が流行発生警報終息基準値（4.0）を上回った。

＜感染性胃腸炎＞

前週より増加し12.94となった。過去10年の同時期と比べると多く、年齢階級別の報告数は2歳が最多。区別では、緑区（26.75）が流行発生警報開始基準値（20.0）を上回り最多で1歳の報告が最も多かった。他に若葉区（20.00）が流行発生警報開始基準値と並んだ。

＜インフルエンザ＞

前週よりやや増加し19.21となった。流行発生注意報基準値（10.0）を上回ったままであり、過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は10-14歳が最多で、10歳未満では6歳が最多。区別では、中央区（28.80）が流行発生警報終息基準値（10.0）を上回り最多で10-14歳の報告が最も多かった。残り5区は全て流行発生注意報基準値を上回った。

＜新型コロナウイルス感染症＞

前週よりやや増加し1.96となった。年齢階級別の報告数は40歳代が最多。区別では、花見川区（3.75）からの報告が最多で20歳代の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2023.pdf

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2023.pdf

■ トピック ■

＜感染性胃腸炎＞

2023年の全国の定点当たりの報告数は第48週現在5.11で、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、大分県（11.56）が最も多く、次いで香川県（9.39）、福岡県（7.80）の順となっています。千葉県は5.74で、全国レベルと比べると多めとなっています。

千葉市では、第21週（9.88）から第41週（5.33）まで過去10年の同時期と比べ最多の状態で推移しました。第44週から第47週までは緩やかに増加していましたが、第48週から急増し第49週は12.94となり、過去10年の同時期と比べると3番目に多い報告数となりました（図1）。

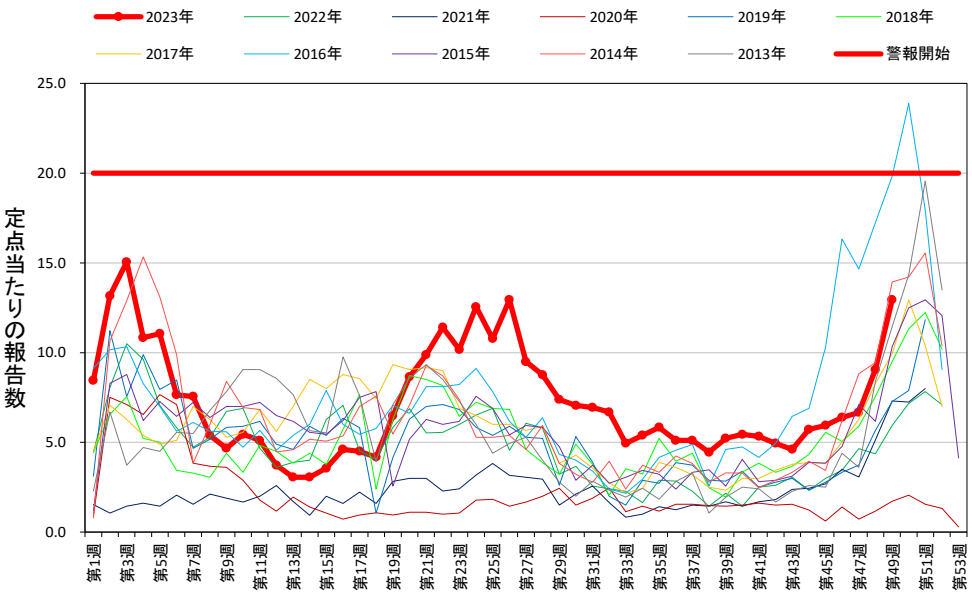

図1：週別　（2013年第1週-2023年第49週）

定点医療機関からの年別患者報告数は、2020年と2021年は2019年以前と比べて半数未満でしたが、2022年は2019年以前とほぼ同数となり、2023年は第49週時点で2016年に次いで多くなっています（図2）。冬季に増加することから、今後の動向を注視する必要があります。第1週から第49週までに定点医療機関から報告された患者数は男性3,488例（55.6%）、女性2,785例（44.4%）の合計6,273例であり、年齢階級別では1歳（1,053例、16.8%）が最も多く、次いで2歳（914例、14.6%）、3歳（813例、13.0%）の順となっています（図3）。

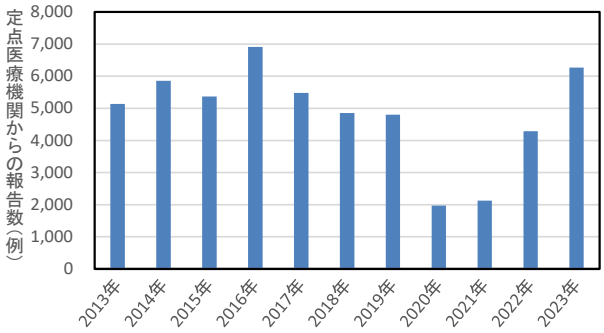

図2　年別・定点医療機関からの報告数
（2013年第1週-2023年第49週）

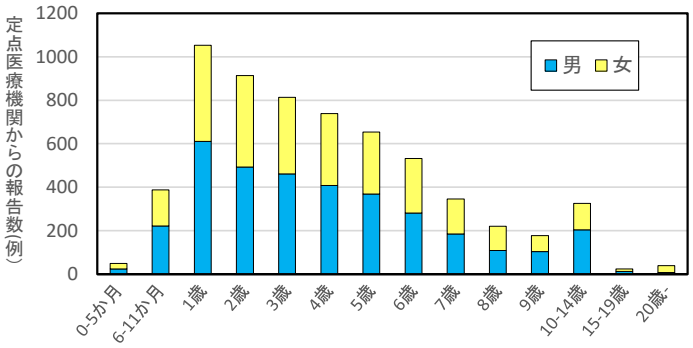

図3　定点医療機関からの性別・年齢階級別報告数
（2023年第1週-第49週 n=6,273）

感染性胃腸炎は、食べ物や飲み水などを介した経口感染で体内に侵入します。感染した人の便や吐物に触れた手指を介して二次感染したり、ヒト同士の接触する機会が多いところでヒトからヒトへ飛沫感染等直接感染する場合があります。

食中毒の一般的な予防方法を励行するほか、吐物、便やおむつ等の適正な処理、流行期の手洗いと患者との濃厚な接触を避ける等、家庭内や集団施設における二次感染の防止策を励行することが重要です。

・吐物、便等を処理する場合は、念のため使い捨てマスクやビニール手袋を用いて、速やかに処理しましょう。
・汚物等を処理した後は、石けんを十分泡立て手指を洗浄し、すすぎは温水でしましょう。
・トイレの後、調理をする際、食事の前にはよく手を洗い、使用するタオル等は清潔なものを使用しましょう。

ノロウイルスは次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系消毒剤や亜塩素酸水等でなければ効果的な消毒は期待できません。衣服や物品、おう吐物を洗い流した場所の消毒は次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200ppm）や亜塩素酸水（遊離塩素濃度25ppm）を使用しましょう。使用にあたっては使用上の注意を守りましょう。

手指に付着したノロウイルスを減らす最も重要で、効果的な方法は「流水と石けんによる手洗い」です。消毒用エタノールによる手指消毒は代用にはなりません。あくまでも一般的な感染症対策の観点から手洗いの補助として用いてください。また、亜塩素酸系消毒剤を手指等の体の消毒には使用しないでください。

具体的な予防対策等については、下記URLをご参照ください。
「千葉市：感染性胃腸炎に注意しましょう！」
https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/kannsennseiityouen.html